

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 6年 2月 20日

事業所名 こぼんはうすさくら 浜松原島教室

保護者等数(児童数) 13(14) 回収数 13 割合 96%

		チェック項目	はい	どちらか いい	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制 整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	11	1		1		見学や契約の時に、見れる機会を作っています。写真や参観などで、見れる機会を増やしています。
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	10			3	先生の異動で新しい先生がよくわかりません。	契約時に職員の配置数を丁寧に伝えていきます。途中から入社してきた先生や、移動してきた先生も丁寧に伝えていきます。
	3	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	10	1		3		個人マークを使い、自分の物や場所を分かりやすくしたり、1日の流れを見てわかるようにしていきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	12			1		音頭や湿度に注意していきます。日々の掃除を徹底して、部屋を清潔に保てるようにしていきます。
適切な 支援の 提供	5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	12	1				職員で話し合ったり、保護者からのニーズを取り入れながら、客観的に分析できるように心がけます。
	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	13					家庭より家族支援をしているが、あまり具体的に示していないので、様々な関係者と連携を取りながら、多面からの支援を考えていきます。
	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	12			1		職員で共有し、同じ支援目標をもって支援を行えるようにしていきます。
	8	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	12	1			いろいろな活動があり良いと思います。イベントも楽しみにしています。	様々な活動ができるよう職員全体で考えていきます。
	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	1	1	1	4	まだ利用を始めたばかりなので分かりませんが	保育園や幼稚園との交流はないので今後考えていきたいです。
保護者 への 説明 等	10	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	12			1		契約時丁寧に伝えていきます。
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	13					支援計画を保護者の方にお渡しする際に説明しています。
	12	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	6		1	6		家庭での話は聞いていますが家族支援まではしていないので、今後機会を作りたいです。
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	11	1		1	リズムのやり取りで1日の様子が分かります。	送迎時やリズムで日々の様子をお伝えしています。
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	12			1		面談は年に1回ですが、個別に相談や電話相談を行っています。
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	9	2	1		もう少し回数が増えると良いです。コロナ禍で交流などができていなかったと思うので、これから増えたいですね。	保護者参加のイベントの時には、話をしたり交流できる場を作りたいです。
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	13					保護者が気軽に相談できる場を作ります。相談があった際は、送迎時や電話ですぐにお返事でできるように対応しています。
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	13				送迎の際に、先生とお話しできています。	送迎時やリズムで情報をお伝えできるようにしています。
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	13				月1回、お便りをいただいています。行事などの様子がよくわかります。	今年度よりえんふとを取り入れました。お便りだけでなく、えんふとでも見て頂けたらと思います。
非常 時 等 の 対応	19	個人情報の取扱いに十分注意されているか	13					書類を破棄する際は、シュレッターを使用しています。個人情報の書類については鍵付きのロッカーに入れています。
	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	13					マニュアルはあり、契約時に説明しているが、周知されているかは定かではないので、保護者参加の避難訓練を通しさらに周知できるようにしていきます。
21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	13				訓練の日にまだ利用したことがないですが、しっかり行われていると思います。	年に1回さまざまな災害を想定した避難訓練を実施しています。	
満足 度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	12			1	毎日楽しく行っています。楽しく通っているため、安心していきます。ありがとうございます。毎日喜んで出発しています。	楽しみに通所して頂けるように活動やイベントを考えたいです。
	23	事業所の支援に満足しているか	13				いつも丁寧に対応していただいています。支援に満足しています。いつもいろいろとお世話になり感謝しています。	子ども達が安心して、楽しんで通所できるよう、職員全体で意識し、取り組んでいく。

259 8 3 23 88%

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 2月 20日

事業所名 こばんはうすくら 浜松原島教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		子ども達が広々と活動できるスペースが確保されている。	人数が多い時は放デイの部屋を使用するなどして落ちついて過ごせる環境をつくってきたい。
	2 職員の配置数は適切であるか	6		事前に1日の職員配置を確認し安全に支援できるようにとめている。	職員の人数が足りない時は、放デイの職員に手伝ってもらうなど連携がとれるようにしていきたい。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6		絵カードなどの視覚教材を活用し、生活の流れを分かりやすくしている。	視覚からの情報も入りやすいよう、掲示物などへも配慮していきたい。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6		毎日の教室の清掃や消毒、換気を行い、感染予防にも努めている。	毎日消毒、掃除をし、清潔な環境を整えていきたい。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6		職員全員で話し合っ、目標設定と振り返りを行っている。	改善点を実行してみる。実行してどうだったかの振り返りを、ミーティングでもっと行っていく。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6		アンケートを取り、保護者の思いを聞き出している。	回収率やコメントが少ない保護者への声掛けを行い、たい。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6		ホームページに公開し、改善点を把握している。	公開していることを知らない人もいるため、周知していく。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	2	民生委員さんに評価していただいている。	第三者による外部評価を行い、業務の見直しを定期的に行っていきたい。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		外部の研修のお知らせを掲示している。定期的に様々な研修に参加している。	様々な研修に参加できる雰囲気を作っていきたい。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6		面談や迷道、リズム等を通し、保護者の気持ちも聞いている。アセスメントに基づいて児童発達支援計画を作成している。	初回のアセスメントの取り方が曖昧になる為項目等把握していく。
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6		市で共通したツールや、もとした事業所内のツールを使用している。	項目を全て顔に入れておくことが難しい。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6		子ども1人1人様子を職員間で共有し、必要な支援をしっかりと支援内容を設定している。	地域支援とは何かももっと明確に取り組んでいく。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6		作成された支援計画にすべての職員が同意し、たうやうで支援を行っている。	日々の支援の中で、目標が職員の目にとまりやすいようにしたい。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	6		ミーティング時に、全員で活動内容を考えている。	様々な本えおいている為もっと見やすい環境にし、活動がマンネリ化しないようにしたい。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		毎日反省を行いよりよいプログラムの立案をチームで行っている。	常に新しい物を取り入れていくようにしたい。
	16 子ども状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	6		2つの短期目標を立てる際取り入れている。	子ども1人1人の強みを生かした支援を行ってきたい。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		職員間でその日の支援内容を把握し共有している。	前日までに活動を決めスムーズに動けるようにしていきたい。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している	6		毎日終礼を行い、1日の子ども達の様子を全職員で振り返りしている。業務日報に記入し、振り返れるようにしている。	振り返りで出た意見を共有し、支援の改善につなげていく。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		子どもの様子を一人一人記録し、まとめている。	個人記録表をもっと活用していく。
関係機関や保護者との連携	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6		定期的にモニタリングを行い必要であれば見直しをしている。	事業所での様子、自宅での様子をもっと深く共有したい。
	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		児童発達支援管理責任者が参画している。	担当者会議で話し合われた内容について職員間で共有していきたい。
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6		連携している保健師から参考意見を聞くようにしている。	地域の保健師さんとの情報を共有したり、施設に息に来てもらったりしているので、引き続き密な連携を取っていく。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	6		医療的ケアが必要な子どもは現在通所している。	今後利用することがある時に備えていく。
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	6		医療的ケアが必要な子どもは現在通所している。	今後利用することがある時に備えていく。
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		園訪問や事業所に来てもらい共有している。	必要に応じては、電話での共有も行っていく。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		かけはしシート作成を行い就学先との連携を図っている。	就学後の子どもの様子についても把握できるように、連携を続けていきたい。
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6		自発の連絡会に参加し情報共有や事例検討をおこなっている。	全ての職員が他の事業所の事例など支援に活かせる情報を得られる場を多く設けられるといい。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	6		今は行っていない。	今後保育園等との交流の機会を設けていきたい。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している	1	5	参加できていない。	参加したくないので積極的に参加していきたい。参加した職員が、ミーティングで共有していく。
30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		帰りの送迎時やリズムでその日の様子を伝え、保護者の方と共有している。	状況によっては面談や電話など保護者の気持ちを開き出す機会を作っていきたい。	

保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	1	5	保護者参加のイベントを開催し、声掛けや支援の様子を見たり、一緒に行ったりにしている。	もっと家族支援プログラムの支援の場を作りたい。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		契約の際に詳しく伝えるようにしている。	契約時に丁寧に伝えるように心がけている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6		支援内容を伝えサインをもらうようにしている。	直接保護者に渡し、内容を具体的に伝えサインをもらうようにしていく。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6		送迎時や電話、リトム等で子どもの様子を伝えるようにしている。	相談内容を職員ともっと共有していく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	1	年に1回保護者同士の話し合いの場を設けるようにしている。	保護者同士が話し合える機会を作っていく。
非常時等の対応	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6		相談や申し入れがあった際は面談や電話での迅速な対応を行っている。	相談や申し入れがあった際は迅速かつ適切に対応していく。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		毎月こぼりだよりを作成し、日々の子ども達の様子を保護者に伝えている。	どの職員でもお便りを作れるようにしていきたい。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6		鍵のついた棚に保管している。	個人ファイルは鍵のついた棚に保管していく。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		手渡しで手紙を渡し、口頭で説明している。	士の保護者がどのように配慮が必要なのかの統一を職員内でやっていく。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	5	企業やスーパーに行く機会を作っている。	もっと様々な機会を設けたい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5	1	保護者、職員への周知が行えていない。	日々見やすい所にマニュアルを置き、職員へ周知していく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		年に4回いろいろな場面での災害を想定し、避難訓練を行っている。	いろいろな場面での災害を想定し、スムーズに動けるようにしていきたい。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	6		契約時に確認している。服薬がある際は、用紙に記入している。	服薬は、医師に処方してもらった薬のみにしている。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	1	対応の仕方を職員間で周知している。契約の際保護者に確認し、個別に対応している。	アレルギーがある場合、弁当、おやつを持参してもらっている。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		ヒヤリハットが起こった時には報告書にまとめ、共有し、ファイルに保管している。	過去のヒヤリハット事例を職員間で周知し、同じことを繰り返さないようにしていきたい。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		虐待防止委員会を設置し年に3回アンケートを職員に実施している。	虐待防止委員以外の職員にも研修に参加してもらおうようにしていく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6		職員間で、子どもの状態に応じた対応の仕方を周知し、保護者に了解を得ている。	ミーティングで職員へもっと周知していく。